

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

平成 18 年度 総括研究報告書

主任研究者 小菅 智 男

平成 19 (2007) 年 4 月

目 次

I .総括研究報告書	
膵がんに対する補助化学療法に関する研究	1
II .研究成果の刊行に関する一覧表	14
III .研究成果の刊行物・別刷	19

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総括研究報告書

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

主任研究者 小菅智男 国立がんセンター中央病院 部長

研究要旨

予後不良な膵癌切除症例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を検討するために、全国 10 施設による多施設共同無作為化比較試験を計画した。試験の概要は次の通りである。対象：浸潤性膵管癌の肉眼的治癒切除症例。比較条件：術後補助化学療法の有無。化学療法の方法：ゲムシタビン 1000mg/m²を週 1 回 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとして 3 コース行う。前層別因子：施設、進行度、根治度。主要評価項目：生存期間、無再発期間。副次的評価項目：化学療法に関連した有害事象。平成 16 年度末までに目標症例数を集積し、新規症例の登録を打ち切った。平成 18 年 12 月まで追跡データの収集を行った。データの確定作業を完了し、臨床統計学的な最終解析の段階まで到達した。

分担研究者

江川 新一	東北大学大学院医学系研究科 助教授
羽 鳥 隆	東京女子医科大学病院 准講師
山 本 順 司	癌研究会附属病院 副部長
中 尾 昭 公	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
土井 隆一郎	京都大学大学院医学研究科 講師
門 田 守 人	大阪大学大学院医学系研究科 教授
島 田 光 生	徳島大学医学部 教授
田 中 雅 夫	九州大学大学院医学研究院 教授
金光敬一郎	熊本大学医学部 講師
松 山 裕	京都大学大学院医学研究科 助教授
上 野 秀 樹	国立がんセンター中央病院 医員

も切除率は低く、また切除された例でも遠隔成績は不良である。膵癌による死亡数は年々増加しており、有効な治療法を確立することは国民的な課題である。これまで、切除可能症例に対しては、手術療法に化学療法や放射線療法などの補助療法を加えた集学的治療が試みられてきた。しかし、膵癌切除例を対象として行われた補助療法の無作為化比較試験は少なく、その結果は一定していない。アメリカでは 1985 年に GITSG による多施設共同無作為化比較試験の結果、外照射と 5-FU による放射線化学療法が膵癌治癒切除例に対する補助療法として有効とされ、以後これが膵癌切除例に対する標準治療とされてきた。しかし、最近、ヨーロッパで 2 つの大規模な国際共同研究が行われ、どちらも放射線化学療法の有効性を確認できなかった。一方、化学療法単独の補助療法に関する多施設共同無作為化比較試験は 1993 年に AMF 療法を用いてノルウェーで行われたものが報告されたのみであり、しかもその結果はあいまいなものであった。したがって、現時点で

A. 研究目的

膵癌は早期診断の困難な疾患であり、今日で

は、膵癌の切除例に対して標準とするべき補助療法は確立していないといえる。

一方、切除不能な膵癌に対する化学療法では、近年、塩酸ゲムシタビン（以下ゲムシタビン）が注目を集めている。ゲムシタビンは代謝拮抗剤に分類される抗悪性腫瘍剤であり、細胞内で三リン酸化物に代謝され、DNA 合成を阻害することによって固形がんに対する殺細胞効果を発揮する。米国およびカナダで実施された第Ⅲ相無作為化比較試験では、ゲムシタビンによる症状緩和効果が 5-FU より有意に高率であることが示され、また、生存期間の延長についてもゲムシタビンのほうが優れていると結論付けられた。米国ではこうした成績をもとにして 1996 年に進行膵癌に対する適応が承認され、本邦でも 2001 年 4 月から膵癌に対する適応が認められた。

以上のように、ゲムシタビンは効果ばかりでなく副作用の面でもこれまで標準的に用いられてきたフルオロウラシルよりも優れており、侵襲の大きな膵癌切除手術後に併用する補助化学療法剤として有望な薬剤と考えられる。そこで、本剤を用いた術後補助化学療法の有用性を評価するための臨床試験を計画した。

B. 研究方法

膵癌切除例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を明らかにするため、以下の内容で研究を行うこととした。

肉眼的治癒切除が行われた浸潤性膵管癌の症例で安全性を維持するために設けられた登録基準を満たしたものを対象として、補助化学療法の有無による治療成績の比較を行う。過去に行われた研究の結果から、単施設での症例集積は困難と予想されるため、多施設共同研究とし、試験の方法は、最も信頼性が高いとされる無作為化比較試験とする。症例の登録は、術後 3 週から 10 週の間登録条件を満たされていることを確認した上で行う。治療成績に影響を及ぼす可能性が高い、施設・腫瘍の進行度・手

術の根治度の 3 要素について偏りが生じないように、これらを前層別因子として動的割付けによる無作為化を行う。主要評価項目は、登録時点からの生存期間および無再発期間とし、補助化学療法による有害事象を副次的評価項目とする。補助化学療法としては、ゲムシタビン 1000mg/m² を 1 週間に一度ずつ 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとし、合計で 3 コース行うこととする。倫理面の配慮として、研究対象者には研究の具体的内容、予想される利益と不利益、研究への参加や同意の撤回に関する自由、人権の擁護、費用の負担などについて詳細に説明した文書を渡した上で口頭による説明を行い、文書による同意を得ることとする。また、それぞれの研究実施施設において倫理審査委員会に研究実施要綱を提出し、その承認を得ることを必須とする。

C. 研究結果

本研究への参加が可能であった全国の主要な膵癌治療医療機関 10 施設、臨床統計家、症例登録センター、モニタリング委員会から構成される研究組織を整え、平成 14 年 6 月から症例の登録を開始した。平成 17 年 3 月 31 日までに 119 例が登録され目標症例数を上回ったため、新規症例の登録を打ち切った。登録症例の経過についてのデータを平成 18 年 12 月 31 日まで集積した。データクレンジングの後、平成 19 年 3 月 12 日にデータを確定した。現在は臨床統計学的な解析作業にかかっており、まもなく結果が判明する予定となっている。

D. 考察

本研究では、2 年生存率に約 20% 以上の差があった場合の検出力を 80% に設定して目標症例数を 100 例と算出した。試験の感度については必ずしも十分とは言えないものの、この分野における過去の経験や報告から現実的な値として設定した。結果的には、比較的順調に症例

を集積することができたので、将来同種の研究を行う場合には、より感度の高い設定でも実施できる可能性が示唆されたものと考ええる。

ゲムシタビンの投与方法は標準的な治療投与方法に従った。投与回数の設定については、十分な効果を得るために長期に投与する方法も議論されたが、無効な場合、術後生存期間は短いことが予想されるため、補助療法の期間としては3カ月程度が妥当であるとの結論に至った。

ゲムシタビンによる補助化学療法の有用性に関しては、本研究だけでなく、ヨーロッパでも類似した試験が進められているので、近い将来にはそれらを比較して総合的な結論が得られると期待される。これらが相反する結果にならないければ、難治がんの代表的存在である膵癌の切除症例に対して初めて標準的な治療が確立する可能性がある。逆に有用性が証明されなければ、効果の少ない治療を行うことによる患者の不利益と医療経済上の不利益を避けることができる。

E. 結論

研究は順調に進展し、臨床統計学的な解析の結果を待つばかりとなった。膵癌の術後補助化学療法に関してはこれまでエビデンスが乏しかったため、本試験の結果は臨床的に重要な意味を持つと考えられる。

F. 健康危険情報

本年度は健康危険に関する情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

外国語論文

- 1) Shimada K, Kosuge T, et al. Reappraisal of the clinical significance of tumor size in patients with pancreatic ductal carcinoma. *Pancreas* 33:233-9, 2006.
- 2) Shimada K, Kosuge T, et al. The role of

paraaortic lymph node involvement on early recurrence and survival after macroscopic curative resection with extended lymphadenectomy for pancreatic carcinoma. *J Am Coll Surg* 203:345-352, 2006.

- 3) Kosuge T, et al. A multicenter randomized controlled trial to evaluate the effect of adjuvant cisplatin and 5-fluorouracil therapy after curative resection in cases of pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 36:159-165, 2006.
- 4) Shimada K, Kosuge T, et al. Clinical implications of combined portal vein resection as a palliative procedure in patients undergoing pancreaticoduodenectomy for pancreatic head carcinoma. *Annals of surgical Oncology* 13:1569-1578, 2006.
- 5) Shimada K, Kosuge T, et al. Prognostic factors after distal pancreatectomy with extended lymphadenectomy for invasive pancreatic adenocarcinoma of the body and tail. *Surgery* 139:288-95, 2006.
- 6) Hiraoka N, Kosuge T, et al. Prevalence of FOXP3+ regulatory T cells increases during the progression of pancreatic ductal adenocarcinoma and its premalignant lesions. *Clin cancer Res* 12:5423-5433, 2006.
- 7) Shimada K, Kosuge T, Sakamoto Y, Sano T, et al. Invasive carcinoma originating in an intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas: a clinicopathologic comparison with a common type of invasive ductal carcinoma. *Pancreas* 32:281-7, 2006.
- 8) Imaizumi T, Hatori T, et al. Pancreaticojejunostomy using

- duct-to-mucosa anastomosis without a stenting tube. *J Hep Bil Pancr Surg* 13:194-201, 2006.
- 9) Nakao A, et al. Indications and techniques of extended resection for pancreatic cancer. *World J Surg* 30:976-982, 2006.
 - 10) Nakao A, et al. Oncological problems in pancreatic cancer surgery. *World J Gastroenterol* 12:4466-4472, 2006.
 - 11) Nakao A, et al. Is pancreaticogastrostomy safer than pancreaticojejunostomy? *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 13:202-206, 2006.
 - 12) Yamada S, Nakao A, et al. Clinical implications of peritoneal cytology in potentially resectable pancreatic cancer: positive peritoneal cytology may not confer an adverse prognosis. *Ann Surg* 2007 in press, 2007.
 - 13) Fujii T, Nakao A, et al. Analysis of clinicopathological features and predictors of malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. *Hepatogastroenterology* 2007 in press, 2007.
 - 14) Furuyama, K., Doi, R., et al. Clinical significance of focal adhesion kinase in Resectable pancreatic cancer. *World J Surg* 30:219-226, 2006.
 - 15) Ito, D., Doi, R., et al. In vivo antitumor effect of the mTOR inhibitor CCI-779 and gemcitabine in xenograft models of human pancreatic cancer. *Int J Cancer* 118:2337-2343, 2006.
 - 16) Tulachan, S.S., Doi, R., et al. Mesenchymal epimorphin is important for pancreatic duct morphogenesis. *Dev Growth Differ* 48:65-72, 2006.
 - 17) Masui, T., Doi, R., et al. Bcl-XL antisense oligonucleotides coupled with antennapedia enhances radiation-induced apoptosis in pancreatic cancer. *Surgery* 140:149-160, 2006.
 - 18) Doi, R., Kami, et al. Prognostic implication of para-aortic lymph node metastasis in resectable pancreatic cancer. *World J Surg.* 31:147-154, 2007.
 - 19) Tsujie M, Monden M, et al. Phase I/II trial of hyperfractionated accelerated chemoradiotherapy for unresectable advanced pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 36:504-510, 2006.
 - 20) Tsujie M, Monden M, et al. Schedule-dependent therapeutic effects of gemcitabine combined with uracile-tegafur in a human pancreatic cancer xenograft model. *Pancreas* 33:142-147, 2006.
 - 21) Nakahira S, Monden M, et al. Involvement of ribonucleotide reductase M1 subunit overexpression in gemcitabine resistance of human pancreatic cancer. *Int J Cancer* 120:1355-1363, 2007.
 - 22) Ikemoto T, Shimada M, et al. Clinical Roles of Increased Populations of Foxp3+ CD4+ T Cells in Peripheral Blood in Advanced Pancreatic Cancer. *Pancreas* 33:386-390, 2006.
 - 23) Miyake K, Shimada M, et al. Thymidine phosphorylase gene expression and its ratio to dihydropyrimidine dehydrogenase in pancreatic cancer is associated with a poor patient outcome. *Cancer Chemother Pharmacol.* 59:113-126, 2007.

- 24) Ogura Y, Tanaka M, et al. Peritumoral injection of adenovirus vector expressing NK4 combined with gemcitabine treatment suppresses growth and metastasis of human pancreatic cancer cells implanted orthotopically in nude mice and prolongs survival. *Cancer Gene Ther.* 13:520-529, 2006.
- 25) Ishikawa N, Tanaka M, Miya T, Mizumoto K, et al. Rapid and Sensitive Assay of K-ras Mutations in Pancreatic Cancer by Electrochemical Detection with Ferrocenyl-naphthalene-diimide. *Cancer Genomics & Proteomics* 3:47-54, 2006.
- 26) Nakashima H, Tanaka M, et al. Nuclear factor- κ B contributes to hedgehog signaling pathway activation through sonic hedgehog induction in pancreatic cancer. *Cancer Res.* 66:7041-7049, 2006.
- 27) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Quantitative Analysis of Human Telomerase Reverse Transcriptase in Pancreatic Cancer. *Clin Cancer Res* 12:2066-2069, 2006.
- 28) Ohuchida K, Tanaka M, et al. Quantitative analysis of MUC1 and MUC5AC mRNA in pancreatic juice for preoperative diagnosis of pancreatic cancer. *Int J Cancer* 118:405-411, 2006.
- 29) Yu J, Ohuchida K, Tanaka M, et al. Overexpression of c-met in the early stage of pancreatic carcinogenesis; altered expression is not sufficient for progression from chronic pancreatitis to pancreatic cancer. *World J Gastroenterol* 12:3878-3882, 2006.
- 30)
- 31) Takamori H, Kanemitsu K, et al. Identification of prognostic factors associated with early mortality after surgical resection for pancreatic cancer-Under-analysis of cumulative survival curve. *World J Surg* 30:213-218, 2006.
- 32) Inoue K, Kanemitsu K, et al. Onset of liver metastasis after histologically curative resection of pancreatic cancer. *Surg Today* 36:252-256, 2006.
- 33) Ikeda O, Kanemitsu K, et al. Evaluation of the efficacy of combined continuous arterial infusion and systemic chemotherapy for the treatment of advanced pancreatic cancer. *Cardiovasc Intervent Radiol* 29:362-370, 2006.
- 34) Matsuyama Y and Morita S.. Estimation of the average causal effect among subgroups defined by post-treatment variables. *Clinical Trials* 3:1-9, 2006.
- 35) Takayasu K, Matsuyama Y, et al. Prospective cohort study of transarterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma in 8510 patients. *Gastroenterology* 131:461-469, 2006.
- 36) Ikai I, Matsuyama Y, et al. A modified Japan Integrated Stage score for prognostic assessment in patients with hepatocellular carcinoma. *Journal of Gastroenterology* 41:884-892, 2006.
- 37) Doi K, Matsuyama Y, and Ohashi Y. Analysis of quality of life data with death and drop-out in advanced non-small-cell lung cancer patients. *Japanese Journal of Biometrics* 27:17-33, 2006.

- 38) Sakamoto K, Matsuyama Y, and Ohashi Y. Sensitivity analysis of publication bias in meta-analysis: A Bayesian approach. Japanese Journal of Biometrics 27:109-119, 2006.
- 39) Hasegawa K, Matsuyama Y, et al. Uracil-tegafur as an adjuvant for hepatocellular carcinoma: A randomized trial. Hepatology 44:891-895, 2006.
- 40) Ueno H, et al. A phase II study of weekly irinotecan as first-line therapy for patients with metastatic pancreatic cancer. Cancer Chemother Pharmacol 59:447-454, 2007.
- 41) Sugiyama E, Ueno H, et al. Pharmacokinetics of gemcitabine in Japanese cancer patients: the impact of a cytidine deaminase polymorphism. J Clin Oncol 25:32-42, 2007.
- 42) Ito Y, Ueno H, et al. Evaluation of acute intestinal toxicity in relation to the volume of irradiated small bowel in patients treated with concurrent weekly gemcitabine and radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. Anticancer Res 26:3755-3759, 2006.
- 43) Okusaka T, Ueno H, et al. A phase I/II study of combination chemotherapy with gemcitabine and 5-fluorouracil for advanced pancreatic cancer. Jpn J Clin Oncol 36:557-563, 2006.
- 3) 江川新一, 他. 全国集計による長期生存膵管癌の実態. 消化器画像 8:413-419, 2006.
- 4) 三上幸夫, 江川新一, 他. 消化器外科におけるインターベンショナル・ドレナージ 膵-膵仮性嚢胞、膵膿瘍. 臨床外科 61:935-939, 2006.
- 5) 田中雅夫, 江川新一, 他. 膵癌登録報告 2007.(平成19年3月 in press) 膵臓 22, 2007.
- 6) 羽鳥 隆, 他. 長期生存膵管癌の臨床と画像—東京女子医科大学. 消化器画像 8:453-457, 2006.
- 7) 三上和久, 山本順司, 他. 膵異時性多発癌の1切除例 浸潤性膵管癌切除1年11ヵ月後の残膵にみられた, 浸潤性膵管癌の1例. 膵臓 21:333-338, 2006
- 8) 竹田 伸, 中尾昭公. 進行・再発膵癌の治療/化学療法 補助化学療法. 日本臨床 64:215-218, 2006.
- 9) 杉本博行, 中尾昭公, 他. 長期生存膵管癌の臨床と画像-名古屋大学. 消化器画像 8:469-472, 2006.
- 10) 竹田 伸, 中尾昭公. 膵がんに対する化学療法. 消化器外科 Nursing 11:902-904, 2006.
- 11) 竹田 伸, 中尾昭公. 膵癌術後補助化学療法について. 医薬の門 46:184-187, 2006.
- 12) 竹田 伸, 中尾昭公. 拡大膵頭十二指腸切除術. 外科 68:43-47, 2006.
- 13) 土井隆一郎, 他. 膵癌治療—最近の動向. 膵癌の手術適応. 日本外科学会雑誌 107:168-172, 2006.
- 14) 土井隆一郎, 他. 膵管癌切除後5年生存例の術前画像と病期診断—京都大学—. 消化器画像 8:479-484, 2006.
- 15) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 耐糖能異常

日本語論文

- 1) 小菅智男, 他. 膵癌・胆道癌の診断と治療—最新の研究動向— A.膵癌 VII.膵癌の治療 膵癌の外科治療. 日本臨床 64:186-189, 2006.
- 2) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 浸潤性膵管癌術後5年生存例の臨床像—国立がんセン

- からみた膵癌診断. 胆と膵 27:135-140, 2006.
- 16) 広田 昌彦, 金光敬一郎, 他. 膵癌の診断: 腫瘍マーカー、膵液解析. コンセンサス癌治療 5:6-9, 2006.
 - 17) 上野秀樹, 鹿庭なほ子. ゲムシタビンの薬理ゲノム学—シチジンデアミナーゼの遺伝子多型. がん分子標的治療 4:47-51, 2006.
 - 18) 上野秀樹, 奥坂拓志. 切除不能膵癌の治療. コンセンサス癌治療 5:40-43, 2006.
 - 19) 上野秀樹, 奥坂拓志. 進行膵癌の予後改善を目指す治療戦略. 消化器科 42:146-153, 2006.
 - 20) 上野秀樹. 膵癌治療における経口フッ化ピリミジンの役割—現状と今後の展望—. *Mebio Oncology* 3:66-71, 2006.
 - 21) 上野秀樹, 奥坂拓志. 切除不能膵がんの化学療法の実状と今後の課題. 血液・腫瘍科 53:436-442, 2006.
 - 22) 上野秀樹, 奥坂拓志. 進行膵癌に対する全身化学療法のエビデンス. 肝・胆・膵疾患治療のエビデンス, In press. 2007.
 - 23) 奥坂拓志, 上野秀樹, 他. 膵癌診療の進歩. 内科の立場から. 日本消化器病学会雑誌 103:391-397, 2006.
 - 24) 池田公史, 上野秀樹, 他. 膵癌 S-1 単剤治療について. 癌と化学療法 33:207-212, 2006.
- 2.学会発表
国際学会
- 1) Ishida M, Egawa S, et al. Search for tumor suppressor genes on chromosome 18 in pancreatic cancer. 97th American Association for Cancer Research., 2006/4, ワシントン DC
 - 2) Egawa S, et al. Five year survivors of invasive ductal carcinoma of the pancreas in Japan. 10th IHPBA Joint meeting, 2006/9, エジンバラ.
 - 3) Matsuno S, Egawa S. R0 resection for ductal pancreatic cancer - Japanese experience. *Pancreas Cancer* 2006, 2006/9, ベルリン.
 - 4) Hatori T, et al. Intraductal papillary mucinous neoplasm with non-invasive carcinoma after distal pancreatectomy for the pancreatic body carcinoma; a case report. 7th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association., 2006/9, Edinburgh, UK.
 - 5) Hatori T, et al. Follow-up strategy after surgical resection of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. 7th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association., 2006/9, Edinburgh, UK.
 - 6) Hatori T, et al. Prophylactic duodenum and spleen preserving total pancreatectomy for a patient with hereditary pancreatic cancer; a case report. 2006 Joint Meeting of the American Pancreatic Association & International Association of Pancreatology. 2006/11, Chicago, USA.
 - 7) Nakao A. Clinical and oncological problems in pancreatic cancer surgery. 10th International Postgraduate Course, 5th School of Surgical Oncology Course KKKU and IASGO Joint Project., 2007/1, Kao Yai, Thailand.
 - 8) Nakao A. 10th International Postgraduate Course, 5th School of Surgical Oncology Course KKKU and IASGO Joint Project. A. Middle pancreatectomy for intraductal

- papillary mucinous neoplasms (IPMN) of the pancreatic body., 2007/1, Kao Yai, Thailand.
- 9) Nakao A. How to proceed with isolated pancreatoduodenectomy combined with portal vein resection for pancreatic head cancer with portal vein obstruction. 14th International Postgraduate Course Organized by IASGO., 2006/12, Athens,, Greece.
 - 10) Kanazumi N, Nakao A. et al. A comparison of pancreaticojejunostomy and pancreaticogastronomy following pancreatic resection. 20th International Society for Digestive Surgery., 2006/11, Rome, Italy.
 - 11) Nakao A. Clinical and oncological problems in pancreatic cancer surgery. Annual Meeting of Surgical Section of Serbian Medical Society., 2006/11, Novi Sad, Serbia.
 - 12) Nakao A. Isolated pancreatoduodenectomy combined with portal vein resection. Annual Meeting of Surgical Section of Serbian Medical Society., 2006/11, Novi Sad, Serbia.
 - 13) Nakao A. Vascular resection in hepatobiliary and pancreatic cancer surgery. Bulgarian surgical society XII national surgical congress. 2006/10, Sofia, Bulgaria..
 - 14) Nakao A. , et al. Isolated pancreatoduodenectomy for pancreatic head cancer. 7th World Congress of IHPBA. 2006/9, Edinburgh, Scotland.
 - 15) Nakao A. Indications and techniques of extended resection for pancreatic cancer. International Symposium on Pancreatic Carcinoma 2006, 2006/8, Taipei, Taiwan.
 - 16) Nakao A. The role of extended surgery for pancreatic cancer. 16th World Congress of IASG., 2006/5, Madrid, Spain.
 - 17) Kami, K., Doi R. , et al. A new treatment for pancreatic cancer by an oncolytic HSV-1 vector with gemcitabine. The 38th meeting of the European Pancreatic Club (EPC), 2006/6, Tampere,, FINLAND..
 - 18) Takeda Y.,Monden M., et al. Standard Pancreatoduodenectomy for Pancreatic cancer. 14th International Postgraduate Course, 2006/12, Athens, Greece.
 - 19) Ohuchida k,Tanaka M., et al. Implication of S100P in pancreatic cancer as an early developmental marker and a therapeutic target, 2006/5, Los Angeles.
 - 20) Ohuchida k, Tanaka M. , et al. Quantitative Analysis of hTERT mRNA in Pancreatic Juice Is More Useful for Differentiating Pancreatic Cancer from IPMN than from Chronic Pancreatitis. DDW 2006 (AGA), 2006/5, Los Angeles.
 - 21) Ohuchida k, Tanaka M. , et al. Twist, a novel oncogene, is up-regulated in pancreatic cancer; clinical implication of Twist expression in pancreatic juice. DDW 2006 (AGA), 2006/5, Los Angeles.
 - 22) Ueno H., et al. A multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer. General poster session. ASCO 2007, 2007/1, Orlando, USA.

国内学会

- 1) 島田和明, 小菅智男, 他. 膵癌に対する門脈合併膵頭十二指腸切除の臨床的意義. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006/7, 横浜
- 2) 奈良聡, 小菅智男, 他. 膵体尾部の浸潤性膵管癌 88 例に対する外科切除成績の検討. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006/7, 横浜.
- 3) 平岡伸介, 小菅智男, 他. 膵多段階発がん過程ならびに膵がん進行過程における FOXP3+制御性 T 細胞浸潤の変化. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 4) 元井冬彦, 江川新一, 他. 膵癌術中腹腔洗浄細胞診の意義. 第 106 回日本外科学会定期学術集会, 2006/3, 東京.
- 5) 元井冬彦, 江川新一, 他. 膵腺扁平上皮癌切除例の検討. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 小倉.
- 6) 江川新一, 他. 膵癌登録全国集計からみた尾側膵切除術後の合併症. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 7) 元井冬彦, 江川新一, 他. 術前 staging と病理 staging の対比からみた局所進行膵癌に対する治療方針 (パネルディスカッション). 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 8) 青木 豪, 江川新一, 他. 膵粘液性嚢胞腫瘍(MCN)における Ad4BP/SF-1 の発現の検討. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 9) 阿部忠義, 江川新一, 他. PanIN 病変、膵癌の Whole Genome Amplification を用いたゲノム解析. 第 37 回日本膵臓学会, 2006/6, 横浜.
- 10) 江川新一, 他. 膵頭十二指腸切除術のクリニカルパス. 第 61 回日本消化器外科学会, 2006/7, 横浜.
- 11) 阿部忠義, 江川新一, 他. Whole Genome Amplification を利用した膵癌の遺伝子診断. 第 61 回 日本消化器外科学会, 2006/7, 横浜.
- 12) 元井冬彦, 江川新一, 他. 臨床病理学的因子からみた通常型膵癌切除補助療法としての塩酸ゲムシタビンの有用性. (ミニシンポジウム). 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 13) 石田晶玄, 江川新一, 他. 膵癌治療における抗癌剤に関わる遺伝子と臨床成績. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 14) 大石英和, 江川新一, 他. 膵全摘術の適応と術後長期成績. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 15) 江川新一, 他. 全国集計からみた膵癌治療の現状. 九州膵癌補助療法カンファレンス (招待口演), 2006/8, 福岡.
- 16) 江川新一, 他. 膵癌登録のための連結可能匿名化プログラムの開発. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 17) 元井冬彦, 江川新一, 他. 塩酸ゲムシタビン無効膵癌に対するタキサンによる 2 次治療. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 18) 大石英和, 江川新一, 他. Notch signal 伝達経路を標的とした新規膵癌治療戦略. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 19) 羽鳥 隆, 他. IPMN/MCN International Guideline の評価と課題—手術適応, 術式, 術後経過観察について—. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 福岡
- 20) 前出幸子, 羽鳥 隆, 他.膵頭部癌診断における Curved planar reformation(CPR)の有用性の検討. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 福岡.
- 21) 羽鳥 隆, 他. 尾側膵切除における膵切除, 膵断端処理の工夫と成績. 第 18 回日

- 本肝胆膵外科関連会議. 2006/5, 東京.
- 22) 羽鳥 隆, 他. 新臨床病期 (new Clinical Stage) を用いた膵癌進行度分類と治療法の選択. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 東京.
- 23) 羽鳥 隆, 他. 手術成績からみた縮小膵切除術の適応と意義. 第 37 回日本膵臓学会大会. 2006/6, 東京.
- 24) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵頭十二指腸切除術後遠隔時の膵機能に関する検討. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 東京.
- 25) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵癌術後長期生存例の遠隔成績に関する検討. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 東京.
- 26) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 3 名の膵癌家族歴を認めた姉妹に対する膵全摘術の経験. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 東京.
- 27) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵体尾部切除術後遠隔時の耐糖能に関する検討. 第 23 回日本胆膵生理機能研究会, 2006/6, 東京.
- 28) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵頭十二指腸切除術における閉鎖型ドレナージの有用性に関する検討, 2006.7. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 29) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 確実な膵空腸吻合を目指した膵管空腸粘膜・粘膜吻合 no stent 法. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 30) 羽鳥 隆, 他. 膵頭十二指腸切除術における術後・晚期合併症, 2006.7. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006/7, 横浜.
- 31) 中尾昭公, 他. Are there really indications for vascular resection in pancreatic cancer? 第 106 回日本外科学会定期学術集会, 2006/3, 東京.
- 32) 加藤公一, 中尾昭公, 他. 当教室における膵頭十二指腸第 2 部切除術の治療成績. 第 106 回日本外科学会定期学術集会, 2006/3, 東京.
- 33) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. Stage IV 膵頭部癌の手術適応と集学的治療. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 北九州.
- 34) 杉本博行, 中尾昭公, 他. 膵消化管吻合部縫合不全の治療. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議・, 2006/5, 東京.
- 35) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. Stage Iva 膵頭部癌の手術適応. . 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議・2006.5.11, 2006/5, 東京.
- 36) 金住直人, 中尾昭公, 他. 教室における標準的膵頭十二指腸切除術-isolated pancreatoduodenectomy-. . 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 37) 鹿野敏雄, 中尾昭公, 他. 膵癌の進展度診断と治療戦略. 日本消化器病学会東海支部第 104 回例会 第 15 回教育講演会. 2006/6, 津.
- 38) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌術後補助化学療法現状. . 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 横浜.
- 39) 杉本博行, 中尾昭公, 他. MDCT により膵癌門脈浸潤はどこまで正確に診断できるか. . 第 37 回日本膵臓学会大会. . 2006.6.30, 2006/6, 横浜.
- 40) 金住直人, 中尾昭公, 他. 膵頭部領域病変に対する治療方針と諸問題・根治性と QOL. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006/7, 横浜.
- 41) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 膵癌における OPRT 発現の臨床的意義について. . 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006/7, 横浜.
- 42) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 膵癌診療におけるトランスレーショナルリサーチの現状と展望. . 第 48 回日本消化器病学会大会. 2006/10, 札幌.
- 43) 中尾昭公, 他. 膵癌外科治療の現状とトランスレーショナルリサーチへの期待.

- 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 44) 中尾昭公, 他. 膵癌診療ガイドライン作成の意義と今後の問題点. . 第 44 回日本癌治療学会総会, 2006/10, 東京.
- 45) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 非切除膵癌における gemcitabine の有用性. . 第 44 回日本癌治療学会総会. . 2006.10.19, 2006/10, 東京.
- 46) 伊東大輔, 土井隆一郎, 他. mTOR inhibition potentiates cytotoxic therapy against pancreatic cancer through tumor vessel dysfunction including thrombogenesis. . 第 106 回日本外科学会, 2006/3, 東京.
- 47) 木田睦士, 土井隆一郎, 他. TRAIL に対する感受性増強をねらった膵癌の TRAIL-based therapy. . 第 106 回日本外科学会, 2006/3, 東京.
- 48) 上和広, 土井隆一郎, 他. 膵頭十二指腸切除術の術後合併症の解析. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 49) 木田睦士, 土井隆一郎, 他. 膵癌における RAD001 を用いた治療戦略, 2006/7, 横浜.
- 50) 土井隆一郎. 「膵癌」診断, 治療, 特に早期膵癌の現状と未来—外科の立場から— (シンポジウム). . 第 11 回日本外科病理学会, 2006/9, 大阪狭山市.
- 51) 澁谷景子(京都大学 放射線治療科), 土井隆一郎, 他. 切除不能局所進行膵癌に対する少量ゲムシタピン同時併用化学放射線療法第 II 相試験. . 第 44 回癌治療学会, 2006/10, 東京.
- 52) 木場崇剛, 土井隆一郎, 他. 進行性胆道癌に対するゲムシタピン単剤の臨床的検討. . 第 44 回癌治療学会, 2006/10, 東京.
- 53) 武田裕, 門田守人, 他. 進行膵癌に対する治療戦略 (Gemcitabine と加速多分割照射法を用いた同時放射線化学療法). . 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 北九州.
- 54) 武田裕, 門田守人, 他. 切除可能進行膵癌 (StageIVa) に対する治療戦略 (Gemcitabine と加速多分割照射法を用いた同時放射線化学療法) 要望演題. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 55) 中森正二, 門田守人, 他. 膵癌における Gemcitabine の治療効果予測の試み. 第 44 回日本癌治療学会総会, 2006/10, 東京.
- 56) 武田裕, 門田守人, 他. 再建術式による膵頭十二指腸切除術後の膵機能の評価. 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006/7, 横浜.
- 57) 橘高信義, 門田守人, 他. 術前放射線化学療法が奏功した膵切除症例の検討 一般口演. 第 6 回膵癌治療研究会, 2006/4, 大阪.
- 58) 池本哲也, 島田光生, 他. 局所進行膵癌に対する IOR を基軸とした集学的治療. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 小倉.
- 59) 徳永卓哉 島田光生, 他. 局所進行膵癌に対する開腹放射線照射療法と TJ-48 による免疫強化 第 106 回日本外科学会, 2006/3, 東京.
- 60) 山田大輔, 田中雅夫, 他. ADAM9 および ADAM15 の膵癌における過剰発現. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 横浜.
- 61) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. 膵発癌における S100A11 の発現とその臨床的意義の検討. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 横浜.
- 62) 田邊麗子, 田中雅夫, 他. IDUS を用いた膵癌進展度の評価. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 横浜.
- 63) 江上拓哉, 田中雅夫, 他. 放射線照射による Dynamine2 発現増強とウイルスベク

- ターの感染効率上昇. 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006/6, 横浜.
- 64) 藤田逸人, 田中雅夫, 他. c-met 過剰発現による膵癌細胞増殖能の抑制
Over-expression of c-met inhibits proliferation of human pancreatic cancer cell line. 第 65 回 日本癌学会学術総会, 2006/6, 横浜.
- 65) 余俊, 田中雅夫, 他. 膵発癌過程における LMO4 mRNA 発現解析. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/6, 横浜.
- 66) 山田大輔, 田中雅夫, 他. 膵癌における S100A2 の発現. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/6, 横浜.
- 67) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. 膵癌マイクロダイセクションサンプルにおける ADAM15 mRNA の過剰発現. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/6, 横浜.
- 68) 藤井圭, 田中雅夫, 他. 膵癌にゲノム不安定性をもたらす分子背景. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 69) 正木雅, 田中雅夫, 他. ヒトすい臓癌細胞に対する Herceptin の抗腫瘍効果. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/6, 横浜.
- 70) 佐藤典弘, 田中雅夫, 他. 遺伝子発現プロファイリングを用いた膵癌新規メチル化ターゲットの同定. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 横浜.
- 71) 中島洋, 田中雅夫, 他. 膵癌における Sonic Hedgehog 過剰発現の意義とメカニズムの解析. 第 19 回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2006/11, 福岡.
- 72) 高森 啓史, 金光敬一郎. 進行膵癌治療における肝転移対策の重要性の理論的根拠とその有用性. 第 92 回消化器病学会, 2006/4, 北九州.
- 73) 高森 啓史, 金光敬一郎. Stage Iva 膵癌に対する手術適応症例選別と集学的治療. 第 18 回日本肝胆膵外科関連会議, 2006/5, 東京.
- 74) 高森 啓史, 金光敬一郎. 切除非適応膵癌に対し肝膵局所動注および全身化学療法施行した 51 例の検討. 第 37 回日本膵臓学会大会・2006/6, 横浜.
- 75) 金光敬一郎. 肝胆膵癌における化学療法の有用性. 第 61 回消化器外科学会・, 2006/7, 横浜.
- 76) 杉田 裕樹, 金光敬一郎. No による IRS-1 蛋白分解と膵癌細胞の増殖抑制. 第 61 回消化器外科学会・2006/7, 横浜.
- 77) 山本 謙一郎, 金光敬一郎. EIPL 療法 (腹腔内頻回大量洗浄療法) を用いた膵癌腹腔種再発に対する予防的治療戦略. 第 61 回消化器外科学会・2006/7, 横浜.
- 78) 古賀 宣勝, 金光敬一郎. 膵癌の浸潤転移に関する新規候補遺伝子 Oxysterol-binding protein-related protein-5. 第 61 回消化器外科学会, 2006/7, 横浜.
- 79) 広田 昌彦, 金光敬一郎. No-touch isolation をめざした膵頭十二指腸切除術. 第 61 回消化器外科学会・2006/7, 横浜.
- 80) 高森 啓史, 金光敬一郎. 膵癌に対する化学療法の有用性. 第 61 回消化器外科学会, 2006/7, 横浜.
- 81) 蒲原 英伸, 金光敬一郎. IL-6 の膵癌細胞の増殖・転移に及ぼす影響と間質細胞による発現制御機構・第 61 回消化器外科学会, 2006/7, 横浜.
- 82) 市原 敦, 金光敬一郎. 膵癌細胞におけるラパマイシンによる抗腫瘍効果の検討. 第 61 回消化器外科学会・2006/7, 横浜.
- 83) 高森 啓史, 金光敬一郎. 膵癌に対する拡大郭清および術中照射併用療法の長期成績の検討. 第 44 回日本癌治療学会総会・, 2006/10, 東京.
- 84) 高森 啓史, 金光敬一郎. 膵癌に対する手術適応症例選別と治療戦略. 第 88 回日本消化器病学会九州支部例会, 2006/11, 鹿児島.

- 85) 高森 啓史, 金光敬一郎. 進行膵癌に対する術前化学療法施行の理論的根拠とその有用性の検証. 第 40 回制癌剤適応研究会, 2007/2, 横浜.
- 86) 上野秀樹, 他. 遠隔転移を有する膵癌に対する治療戦略. シンポジウム. 第 92 回日本消化器病学会総会, 2006/4, 小倉.
- 87) 上野秀樹, 他. 日本人がん患者におけるゲムシタビンの母集団薬物動態. 口演, 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006/9, 東京.

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル	雑誌名	巻	頁	年
Shimada K, <u>Kosuge T</u> , et al.	Reappraisal of the clinical significance of tumor size in patients with pancreatic ductal carcinoma.	Pancreas	33	233-239	2006
Shimada K, <u>Kosuge T</u> , et al.	The role of paraaortic lymph node involvement on early recurrence and survival after macroscopic curative resection with extended lymphadenectomy for pancreatic carcinoma	J Am Coll Surg	203	345-352	2006
<u>Kosuge T</u> , et al.	A multicenter randomized controlled trial to evaluate the effect of adjuvant cisplatin and 5-fluorouracil therapy after curative resection in cases of pancreatic cancer	Jpn J Clin Oncol	36	159-165	2006
Shimada K, <u>Kosuge T</u> , et al.	Clinical implications of combined portal vein resection as a palliative procedure in patients undergoing pancreaticoduodenectomy for pancreatic head carcinoma	Annals of surgical Oncology	13	1569-1578	2006
Shimada K, <u>Kosuge T</u> , et al.	Prognostic factors after distal pancreatectomy with extended lymphadenectomy for invasive pancreatic adenocarcinoma of the body and tail.	Surgery	139	288-95	2006
Hiraoka N, <u>Kosuge T</u> , et al.	Prevalence of FOXP3+ regulatory T cells increases during the progression of pancreatic ductal adenocarcinoma and its premalignant lesions	Clin cancer Res	12	5423-5433	2006
Shimada K, <u>Kosuge T</u> , et al.	Invasive carcinoma originating in an intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas: a clinicopathologic comparison with a common type of invasive ductal carcinoma.	Pancreas	32	281-287	2006
Imaizumi, <u>Hatori T</u> , et al.	Pancreaticojejunostomy using duct-to-mucosa anastomosis without a stenting tube.	J Hep Bil Pancr Surg	13	194-201	2006
<u>Nakao A</u> , et al.	Indications and techniques of extended resection for pancreatic cancer.	World J Surg	30	976-982	2006
<u>Nakao A</u> , et al.	Oncological problems in pancreatic cancer surgery.	World J Gastroenterol	12	4466-4472	2006
<u>Nakao A</u> , et al.	Is pancreaticogastrostomy safer than pancreaticojejunostomy?	J Hepatobiliary Pancreat Surg	13	202-206	2006
Yamada S, <u>Nakao A</u> , et al.	Clinical implications of peritoneal cytology in potentially respectable pancreatic cancer: positive peritoneal cytology may not confer an adverse prognosis.	Ann Surg 2007 in press			2007
Fujii T, <u>Nakao A</u> , et al.	Analysis of clinicopathological features and predictors of malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas.	Hepatogastroenterology 2007 in press			2007

発表者氏名	論文タイトル	雑誌名	巻	頁	年
Furuyama, K., <u>Doi, R.</u> , et al.	Clinical significance of focal adhesion kinase in Resectable pancreatic cancer	World J Surg	30	219-226	2006
Ito, D., <u>Doi, R.</u> , et al.	In vivo antitumor effect of the mTOR inhibitor CCI-779 and gemcitabine in xenograft models of human pancreatic cancer.	Int J Cancer	118	2337-2343	2006
Tulachan, S.S., <u>Doi, R.</u> , et al.	Mesenchymal epimorphin is important for pancreatic duct morphogenesis.	Dev Growth Differ	48	65-72	2006
Masui, T. <u>Doi, R.</u> , et al.	Bcl-XL antisense oligonucleotides coupled with antennapedia enhances radiation-induced apoptosis in pancreatic cancer.	Surgery	140	149-160	2006
<u>Doi, R.</u> , et al.	Prognostic implication of para-aortic lymph node metastasis in resectable pancreatic cancer.	World J Surg.	31	147-154	2007
Tsujie M, <u>Monden M</u> , et al.	Phase I/II trial of hyperfractionated accelerated chemoradiotherapy for unresectable advanced pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol	36	504-510	2006
Tsujie M, <u>Monden M</u> , et al.	Schedule-dependent the repecutic effects of gemcitabine combined with uracile-tegafur in a human pancreatic cancer xenograft model.	Pancreas	33	142-147	2006
Nakahira S, <u>Monden M</u> , et al.	Involvement of ribonucleotide reductase M1 subunit overexpression in gemcitabine resistance of human pancreatic cancer	Int J Cancer	120	1355-1363	2007
Ikemoto T, <u>Shimada M</u> , et al.	Clinical Roles of Increased Populations of Foxp3+ CD4+ T Cells in Peripheral Blood in Advanced Pancreatic Cancer.	Pancreas	33	386-390	2006
Miyake K, <u>Shimada M</u> , et al.	Thymidine phosphorylase gene expression and its ratio to dihydropyrimidine dehydrogenase in pancreatic cancer is associated with a poor patient outcome.	Cancer Chemother Pharmacol.	59	113-126	2007
Ogura Y, <u>Tanaka M</u> , et al.	Peritumoral injection of adenovirus vector expressing NK4 combined with gemcitabine treatment suppresses growth and metastasis of human pancreatic cancer cells implanted orthotopically in nude mice and prolongs survival	Cancer Gene Ther.	13	520-529	2006
Ishikawa N, <u>Tanaka M</u> , et al.	Rapid and Sensitive Assay of K-ras Mutations in Pancreatic Cancer by Electrochemical Detection with Ferrocenyl-naphthalene-diimide	Cancer Genomics & Proteomics	3	47-54	2006
Nakashima H, <u>Tanaka M</u> , et al.	Nuclear factor-kappaB contributes to hedgehog signaling pathway activation through sonic hedgehog induction in pancreatic cancer.	Cancer Res.	66	7041-7049	2006
Ohuchida K, <u>Tanaka M</u> , et al.	Quantitative Analysis of Human Telomerase Reverse Transcriptase in Pancreatic Cancer	Clin Cancer Res	12	2066-2069	2006

発表者氏名	論文タイトル	雑誌名	巻	頁	年
Ohuchida K, <u>Tanaka M</u> , et al.	Quantitative analysis of MUC1 and MUC5AC mRNA in pancreatic juice for preoperative diagnosis of pancreatic cancer	Int J Cancer	118	405-411	2006
Yu J, <u>Tanaka M</u> , et al.	Overexpression of c-met in the early stage of pancreatic carcinogenesis; altered expression is not sufficient for progression from chronic pancreatitis to pancreatic cancer.	World J Gastroenterol	12	3878-3882	2006
Takamori H, <u>Kanemitsu K</u> , et al.	Identification of prognostic factors associated with early mortality after surgical resection for pancreatic cancer-Under-analysis of cumulative survival curve	World J Surg	30	213-218	2006
Inoue K, <u>Kanemitsu K</u> , et al.	Onset of liver metastasis after histologically curative resection of pancreatic cancer	Surg Today	36	252-256	2006
Ikeda O, <u>Kanemitsu K</u> , et al.	Evaluation of the efficacy of combined continuous arterial infusion and systemic chemotherapy for the treatment of advanced pancreatic cancer.	Cardiovasc Intervent Radiol	29	362-370	2006
<u>Matsuyama Y</u> , and Morita S.	Estimation of the average causal effect among subgroups defined by post-treatment variables.	Clinical Trials	3	1-9	2006
Takayasu K, <u>Matsuyama Y</u> , et al. Liver Cancer Study Group of Japan.	Prospective cohort study of transarterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma in 8510 patients.	Gastroenterology	131	461-469	2006
Ikai I, <u>Matsuyama Y</u> , et al. Liver Cancer Study Group of Japan.	A modified Japan Integrated Stage score for prognostic assessment in patients with hepatocellular carcinoma.	Journal of Gastroenterology	41	884-892	2006
Doi K, <u>Matsuyama Y</u> , and Ohashi Y	Analysis of quality of life data with death and drop-out in advanced non-small-cell lung cancer patients.	Japanese Journal of Biometrics	27	17-33	2006
Sakamoto K, <u>Matsuyama Y</u> , and Ohashi Y	Sensitivity analysis of publication bias in meta-analysis: A Bayesian approach.	Japanese Journal of Biometrics	27	109-119	2006
Hasegawa K, <u>Matsuyama Y</u> , et al.	Uracil-tegafur as an adjuvant for hepatocellular carcinoma: A randomized trial.	Hepatology	44	891-895	2006
Ueno H, et al	A phase II study of weekly irinotecan as first-line therapy for patients with metastatic pancreatic cancer.	Cancer Chemother Pharmacol	59	447-454	2007
Sugiyama E, <u>Ueno H</u> , et al	Pharmacokinetics of gemcitabine in Japanese cancer patients: the impact of a cytidine deaminase polymorphism.	J Clin Oncol	25	32-42	2007
Ito Y, <u>Ueno H</u> , et al	Evaluation of acute intestinal toxicity in relation to the volume of irradiated small bowel in patients treated with concurrent weekly gemcitabine and radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer.	Anticancer Res	26	3755-3759	2006
Okusaka T, <u>Ueno H</u> , et al	A phase I/II study of combination chemotherapy with gemcitabine and 5-fluorouracil for advanced pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol	36	557-563	2006

発表者氏名	論文タイトル	雑誌名	巻	頁	年
小菅智男, 他.	膵癌・胆道癌の診断と治療—最新の研究動向— A. 膵癌 VII. 膵癌の治療 膵癌の外科治療	日本臨床	64	186-189	2006
阪本良弘, 小菅智男, 他.	浸潤性膵管癌術後5年生存例の臨床像—国立がんセンター中央病院—	消化器画像	8	445-451	2006
江川新一, 他.	全国集計による長期生存膵管癌の実態	消化器画像	8	413-419	2006
三上幸夫, 江川新一, 他.	消化器外科におけるインターベンショナル・ドレナージ 膵-膵仮性嚢胞、膵膿瘍	臨床外科	61	935-939	2006
田中雅夫, 江川新一, 他.	膵癌登録報告2007. (平成19年3月 in press)				2007
羽鳥 隆, 他.	長期生存膵管癌の臨床と画像—東京女子医科大学.	消化器画像	8	453-457	2006
三上和久, 山本順司.	膵異時性多発癌の1切除例 浸潤性膵管癌切除1年11ヵ月後の残膵にみられた、浸潤性膵管癌の1例	膵臓	21	333-338	2006
竹田 伸, 中尾昭公.	進行・再発膵癌の治療/化学療法補助化学療法.	日本臨床	64	215-218	2006
杉本博行, 中尾昭公, 他.	長期生存膵管癌の臨床と画像—名古屋大学.	消化器画像	8	469-472	2006
竹田 伸, 中尾昭公.	膵がんに対する化学療法.	消化器外科Nursing	11	902-904	2006
竹田 伸, 中尾昭公.	膵癌術後補助化学療法について.	医薬の門	46	184-187	2006
竹田 伸, 中尾昭公.	拡大膵頭十二指腸切除術.	外科	68	43-47	2006
土井隆一郎, 他.	膵癌治療—最近の動向. 膵癌の手術適応.	日本外科学会雑誌	107	168-172	2006
土井隆一郎, 他.	膵管癌切除後5年生存例の術前画像と病期診断—京都大学—	消化器画像	8	479-484	2006
高森啓史, 金光敬一郎, 他.	耐糖能異常からみた膵癌診断	胆と膵	27	135-140	2006
広田 昌彦, 金光敬一郎, 他.	膵癌の診断: 腫瘍マーカー、膵液解析	コンセンサス癌治療	5	6-9	2006
上野秀樹, 鹿庭なほ子	ゲムシタピンの薬理ゲノム学—シチジンデアミナーゼの遺伝子多型.	がん分子標的治療	4	47-51	2006
上野秀樹, 奥坂拓志	切除不能膵癌の治療	コンセンサス癌治療	5	40-43	2006
上野秀樹, 奥坂拓志	進行膵癌の予後改善を目指す治療戦略	消化器科	42	146-153	2006
上野秀樹	膵癌治療における経口フッ化ピリミジンの役割—現状と今後の展望—	Mebio Oncology	3	66-71	2006
上野秀樹, 奥坂拓志	切除不能膵がんの化学療法の現状と今後の課題	血液・腫瘍科	53	436-442	2006
上野秀樹, 奥坂拓志	進行膵癌に対する全身化学療法のエビデンス.	肝・胆・膵疾患治療のエビデンス, In press			2007
奥坂拓志, 上野秀樹, 他	膵癌診療の進歩. 内科の立場から.	日本消化器病学会雑誌	103	391-397	2006
池田公史, 上野秀樹, 他	膵癌 S-1単剤治療について.	癌と化学療法	33	207-212	2006